

耳公民館だより



第68号 令和7年4月



(小倉山山頂から)



小倉山の山頂が整備されて、ベンチ付きのテラスができました。何本かの木々の伐採もされて、晴れた日には梅丈岳がよく見えます。坂道を車で上がることもできますし、少々の体力があれば徒歩でもそれほど苦になりません。周囲には柵をめぐらせてあって転落の危険もありません。麻生と佐柿を結ぶ道に登り口があります。一度おでかけください。

「たのしい折り紙」サークルさんの素敵な作品が窓口に



サークル活動で作られた作品を、いつも公民館のカウンターに置いてくださいます。どれもていねいに作られていて、すばらしい出来ばえです。歴史文化館の来館者は県外の方もおられますが、感心してじっと見ておられます。

和紙のあたたかみが
手でさわらなくても
伝わってきますね

「耳地区の桜」写真展

今月下旬から始めます！

天候不順が普通のようになって桜を楽しむのもむずかしくなったように感じます。何とか今年も公民館ろうかで展示します。ぜひお立ち寄りください。



今年の桜です
どこでしょう？

立ち寄り型講座「ふらっと」ニュース

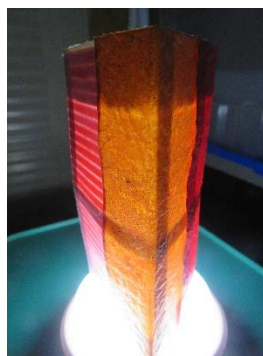


⑦ 和紙のミニあんどん作り

画用紙の枠を作って、和紙を貼るだけの簡単な工作です。
見た目はぱっとしませんが、
中から光を当てると…



大人も子供も
アイデアしだいで
色々なものが
できあがります。



館長のつぶやき

和紙

立ち寄り型講座「ふらっと」の七つ目を和紙で企画していたところ折り紙サークルさんが見事な和紙の技を披露してくださいました。

和紙は言うまでもなく日本が誇る伝統文化の代表格です。薄くても丈夫で耐久性があり、古くから色々な分野で活用されてきました。重要なことを記録するために国として生産を推進したのが紙作りの始まりとする説があり、福井県の今立が国内の有数な産地だったと聞くと誇らしくなります。

紙というと「書く」がすぐに思い浮かびますが、木版画や建築材料、紙幣などにも利用されていて、千年以上も残る優れた保存性が現在も残る文化財というものを生み出したと言えます。

また、和紙には独特の「透ける」という特徴もあって、あんどんや障子のように光を柔らかく通す使い方が広まりました。今回の立ち寄り型講座では、扱いやすさや光との相性の良さを「透けて見える」感じと共に味わえたらと思います。

技術の進歩で原版を短時間で何枚も美しく印刷できるようになりましたが、あつという間に世は「ペーパーレス」時代となり、コピー用紙のような「洋紙」は使用が自粛傾向となつていきます。それに対して和紙のすばらしさは世界中に認められ広まっています。

耳公民館では日本文化の良さをテーマとした講座を今後も企画していきますが、あまり力みがすぎると「肩すかし」をくらうかもしれませんね。